

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立北大路中学校 令和6年 10月

■教育目標

豊かな知性と情操を備え、心身ともに健康で「自主力行」に励む生徒の育成



○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

結果について

《概要》

今回調査のあった国語・数学共に、短答式や選択式の問題の正答率が、県・全国平均を大きく上回りました。一方で、国語・数学共に、記述式で無回答率が高く、解答を文章で書いたり、言葉や数、式を使って説明したりすることが課題となりました。

国語の平均正答率では、県平均を上回りましたが、全国平均を下回りました。表現の技法や行書の特徴などの理解や、資料を用いて自分の考えが伝わるように話すことについては、県、全国平均を大きく上回りました。

数学の平均正答率では、県、全国平均を上回りました。確率の理解、式とグラフの意味や特徴を関連付けた理解では、県、全国平均をかなり上回りました。

生徒質問紙では、「国語・数学の授業で学習したことが将来、社会に出たときに役に立つと思う」という肯定的な回答を9割以上の生徒がしており、必要性を感じながら学習に取り組む姿勢が身についています。しかしながら、課題意識をもって主体的に取り組む姿勢や、他者との交流を生かして自分の考えを整理し発表することに課題が見られました。

《強み・弱み》

① 各教科

国語では、言葉の特徴や使い方に関することなどの基礎問題は平均を上回っており、特に、文脈に即して漢字を正しく書くことができている生徒が多い反面、文章を要約することや、必要な情報を取り出し、表現の効果を考えて自分の考えが伝わる文章になるよう工夫することに課題が見られました。

数学では、問題文を読み数字で計算する問題や、確率を求める問題では高い正答率でした。教科書の問題を中心とした繰り返し練習ができるような基礎・基本の問題はしっかり身につけています。しかし、複数の集団のデータを比較して読み取ることや、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があることがわかりました。

② 質問紙

毎日同じくらいの時刻に起床し、朝食をしっかりと食べている生徒が多いです。また、普段の生活の中での幸福感が高い生徒も多いです。「いじめは、どんな理由があってもいけない」と認識しており、9割以上の生徒が、友達や周りの人の考えを大切に、協力しながら課題の解決に取り組んでいると答えています。しかし昨年度と同様に、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と思っている生徒がやや少ないのが課題です。また、授業において、課題意識を持って主体的に取り組んでいるという設問に対して肯定的な回答が低いことについても、今後の対応が必要です。

指導の充実に向けて

- ・国語では、「書くこと」の学習において、「構成の検討」「考えの形成」「推敲」に関する資質・能力を身につけられる学習をこれからも継続していくとともに、根拠を明確にした文章になるよう記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動の充実を図ります。また、読書活動の充実を図りつつ、生徒が様々な文学作品に触れる機会を設定し、「国語の勉強が楽しい」と感じられるような授業の創造を目指します。
- ・数学では、日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させるため、多くのパターンの問題等を授業に取り入れ、問題文をしっかりと読み、内容を整理して答えを導き出す課題を設定します。また、データを言葉と数を使って表現する力を身に付けさせるとともに、主体的に考えたり、調べたりする課題に取り組めます。
- ・学校生活において、幸福感が高く友達関係を大切にできる生徒が多いことから、今後は、他者との交流の機会を増やすとともに、教育相談などをより充実したものにして、教職員・保護者などの信頼できる大人との人間関係の構築を目指します。
- ・地域と連携して、行事に参加しやすい雰囲気づくりを進め、社会に貢献できる人材を目指し、学習だけでなく自らが進んで地域行事に取り組めるよう丁寧に生徒に寄り添いながら生徒の育成に努めていきます。